



米商進路だより

令和3年9月27日発行
山形県立米沢商業高等学校
進路指導部（第15号）

《 合格への道 》

9月16日に解禁した就職試験ですが、殆どの方が試験を終了し採用結果が届き始めました。企業によっては、2次試験（採用担当者面接）および3次試験（役員面接）と続けて実施される企業もありますので、合格を目指して練習の成果を発揮してほしいと思っています。職員室では、受験終了後の面接内容や筆記試験、そして合格の知らせを報告してくれて、先生方は安堵感に包まれていました。

さて、皆さんは「自己分析」という言葉を聞いたことがありますか。聞きなれない言葉かもしれませんが、自分のことを知ることです。「得意なことは何か」「どんなことに喜びを感じるか」「長所はどこか」等の自分のことが的確に答えることができれば、面接の受け答えに説得力が出てきます。自分の魅力を一番身近な両親、友達や先生方に聞いてみて、「自己分析」を済ませておくことが進路実現への第1歩なのです。

また、第一志望を決めるためにはいくつかの段階があります。はじめは「夢」でもかまいません。高い「志」を立てて下さい。人は手が届かないかもしれないものを入れようとすると、よりいっそうの努力ができ、成果も満足感も大きくなるものです。そして、次の段階は「行きたい学校」や「行きたい企業」について調べ現実を知ることです。「学力」や「心」を鍛える必要があること理解できるはずです。

《 就職試験の面接で聞かれた内容（受験報告書より） 》

人生でいちばん楽しかったこと	オンライン授業の良い点と悪い点
あなたの強み（内面的なこと）	自分を動物に例えると
楽しい授業とその理由	文化祭は何をするのか
ストレス解消法	総合ビジネス科と情報ビジネス科の違い
商業高校で得た知識の説明	周りの人からどんな人と言われるか

《 進学試験が本格化 》

10月1日より「総合型選抜」の受付が本格化します。総合型選抜は自己PRを積極的に行う一芸に秀でている人物を求めている傾向があります。「部活動で全国大会に出場経験がある」「簿記が得意で日商簿記2級を有している」等、得意分野があり周りが認めるほどの成績を残している人は、個性や適性という点において大学側が求めている人物像となります。チャレンジするための実績作りが必要です。

総合型選抜	専願	自己PRする材料がある/プレゼンが得意
学校推薦型選抜	専願	文武両道を成し遂げた/定期考査の努力
一般選抜	併願可	日々の学習の成果を試したい

《 第2回 1・2年生 進路達成へのアドバイス(本校教職員から) 》

看護師，小学校教師，牧場主，裁判官。これが私のなりたかった職業。高校時代，野球部のマネージャーをする中で，少々お節介なところや教えたがりの性格が教師に向いていると思い，小学校教師を目指すことに決めた。ところが，入試日程の関係で別の大学に合格し，何を思ったか「自由」を渴望していた私は，土壇場で小学校教員免許が取れない関東の大学に行くことに決め，今，高校地歴科教員として働いている。

進路決定に限らず，人生は選択の連続。一つを選んだら，一つは捨てることになる。だけど大切なのは，選んだ道に精一杯邁進すること。だって決めたのは自分なのだから。(A先生)

進路決定に至るまでを語る上で，少し自分の人生をさかのぼる必要があります。私は中学校時代，勉強が得意ではなく残念な状態でした。高校入学後，主要5教科から離れられるという不純な理由で商業高校を選択したわけですが，ここが私の人生のターニングポイントだったと思います。忘れもしません，連日繰り返される簿記の授業，そして課題の連続…。そのような地獄の日々に光が差し込んだのは決算の8桁精算表の作成の時間でした。最後の最後で貸借対照表と損益計算書の当期純利益がピタリ一致する。え，マジックですか？と思うほどの不思議，そして達成感から私は簿記の世界へと導かれることになります。

もし，私が数学的な思考が強くて当期純利益が一緒になるのは当たり前だ！とわかってしまっていたら，今頃はプロ野球選手になっていたでしょう。簿記との出会いが「学ぶ楽しさ」を知るきっかけとなり，勉強なんて苦痛だと思っていた少年が大学へ行ってさらに学問を深めようと思うわけです。進路決定に関して何がきっかけになるかわかりません。ただ，様々なことに興味を持てることはプラスに働くはずです。もう教員としての生活も10年を過ぎますが，今でも中学の友人たちには「お前が教員になるなんて…」と言われます。どういうことでしょうか，私にはその意味がさっぱり分かりません。(W先生)

高校生の時，自己紹介もできないほど英語が苦手だったのに，青年海外協力隊として「国々を回り栄養指導をしたい」などと言っていた。今思えば，自信のない自分でも海外に行けば少しは必要とされるかもしれないという逃げだった。担任の先生はそれを見透かし，地に足を付けて行くよう栄養士と教員免許が取れる学校を進めてくれた。学校が好きでなかったのも先生になりたいなどと思いもしなかった。でも担任の先生は「将来先生にならなくとも，免許だけでもとっておくといいよ。資格は自分の助けになる。」と教えてくれた。育休あけ，戻れる場所があると感じたとき，担任の先生の顔が思い浮かんだ。海外でバリバリ働く自分も懂れるが，仕事と育児を何とかやり過ごし，そして何よりかわいい米商生に巡り会え，嫌いと思っていた学校を好きになった今，私は幸せだ。(I先生)

私の進路決定に大きく関わったのは，体力テストの結果だ。高校時代，部活動にすべて力を注いでいたためか，各科目の点数は低いものが多かった。漠然と，将来は教員になればいいかなと考えていたが，そこまで明確な考えではなかった。高校3年生の時の体力テストで校内2位だったことで，「体育の先生」の免許にとれる大学へいこうと思った。結果としては，第一志望の大学ではなかったが，クラスメイトに自学ノートを提出し合い，問題を出し合ったりしたのは今でもいい思い出だ。(K先生)